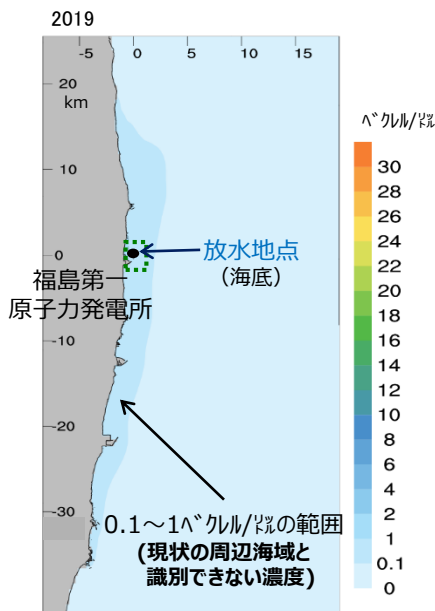


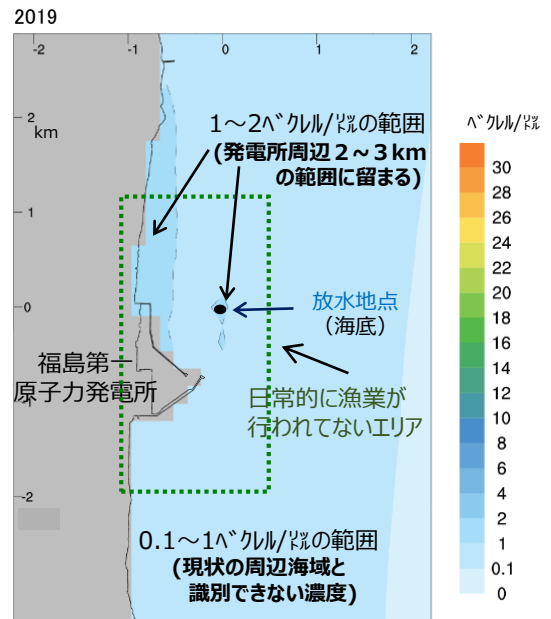
# 海洋拡散シミュレーション結果

- 発電所沖合約1 kmの海底（海底トンネル出口）から放出した場合、表層において現状の周辺海域の海水に含まれるトリチウム濃度(0.1~1ベクレル/ℓ)より濃度が高くなると評価された範囲（1~2ベクレル/ℓ）は、**発電所周辺の2~3kmの範囲に留まる**との結果（年間平均）となりました。
- また、海底トンネル出口近傍では**30ベクレル/ℓ程度を示す箇所も見られましたが、その周辺では速やかに濃度が低下しており、世界保健機関(WHO)の飲料水ガイドライン（1万ベクレル/ℓ未満）を大幅に下回る結果**となりました。

※ 本結果は、2014年度気象・海象データを使用した評価結果（2020年3月24日公表）と比べて大きな違いはありませんでした



福島県沖〔拡大図〕  
(最大目盛30ベクレル/ℓで作図)



発電所周辺〔拡大図〕  
(最大目盛30ベクレル/ℓで作図)



## 対象海域

福島県を中心に南北約490km、東西約270km

## 気象、海象データ

2014年および2019年（1月~12月）の風速、気圧、気温、湿度、降水量、沖合の海流等を採用

海水中の放射性物質濃度の算出に係るエリア図